

政策	52 生涯学習の充実						
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	無	受益者負担	適正	
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有	
対象	市民						
施策が目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習に対する市民の多様なニーズに応じた、利用しやすい生涯学習環境の充実を図り、利用者の満足度を向上させる。 地域の多彩な人材が地域社会で活躍できる環境づくりを推進し、各種学級・講座等を充実させ受講者の満足度を向上させる。 						
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育施設利用者満足度...平成29年度で80% 各種学級・講座受講者満足度...平成29年度で80% 						
目標達成状況			平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	成果指標1 [%]	予定	63.00	65.00	70.00	75.00	80.00
		実績			98.62	97.49	97.78
	成果指標2 [%]	予定	63.00	65.00	70.00	75.00	80.00
		実績			98.27	97.54	96.34
	成果指標3 []	予定					
		実績					
	成果指標4 []	予定					
実績							
トータルコスト (千円)	予定	846,567	811,736	860,111	765,055	874,353	
	実績	810,757	815,315	832,758	846,658	873,396	
内部評価	貢献度	基本方針の「健やかに人を育み学び続けられる町づくり」には一生に渡り学び続ける生涯学習の充実が不可欠であるため、本基本施策の目標達成度による貢献度は高い。					
	達成状況	2つの単位施策とも目標値を上回り、達成度も満たしていることから、当該基本施策の成果指標を達成した。					
	課題	特に施設について、老朽化が始まっている施設が数多くみられるため、計画的な改修を行い、満足度を下げないような施策が必要と考えられる。					
	取組方針	老朽化施設の適切な改修を行うとともに、とちぎ未来アシストネット事業を推進し、学校・家庭・地域の連携・協働体制を更に築きながら、生涯学習の満足度向上を図る。					
外部評価	<p>成果指標である満足度はそれぞれ達成しており評価に値する。 施設の老朽化という課題に対して計画的な改修を行っていくという考え方であるが、施設の再配置計画に沿った統廃合の検討も必要だと考える。 そのためにも、各施設の目的や役割などを、市民に理解してもらうことは不可欠であり、他の施設との連携も模索する必要があると思料される。 地域の感情もあるため、難しい課題であることは理解できるが、関係部署の努力を期待したい。 生涯学習を推進するため、情報発信や人材育成が重要であるため、単位施策での外部評価意見を参考に努力されることを期待する。</p>						
基本施策達成のための単位施策	施策コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度
	5201	生涯学習環境の充実				413,861	100
	5202	生涯学習機会の充実				459,535	100

平成29年度 単位・基本 施策評価表 補表

施策	52 生涯学習の充実		
区分	妥当性	妥当	生き生きと学び、人づくり・まちづくりに参画する生涯学習を推進するため、妥当である。
	コスト削減の余地	無	施設の維持管理や講座開催に係る経費は必要最小限であり、適正な受講料を徴しているため、コスト削減は難しい。
	受益者負担	適正	施設の使用料や各種講座の受講料や講師謝金等を徴していることから適正である。
	上位貢献度	有効	多様なニーズに応じた生涯学習環境の形成や多彩な人材を活かした学習メニューの充実による貢献度が高いと判断した。
	類似事業の有無	無	
	成果向上の余地	有	施設利用者数や各種学級受講者数は伸びており、今後も成果向上の余地があると判断した。
内部評価 【H29年 度分】	貢献度	基本方針に掲げる「健やかに育み学び続けられるまちづくり」は、一生に渡り学び続ける学習の充実が不可欠であるため、本基本施策の目標達成度は高いと判断した。	
	達成状況	2つの単位施策とも目標値を上回った。 「とちぎ未来アシストネット」は、国からも評価を受け、ボランティア活動回数も計画値を上回り、順調に実績を重ねている。また、コミュニティ・スクールや小中学校一貫教育との連携により、更なる活動の幅を広げた。 各種講座の受講生の活躍の場について、とちぎ市民大学では、市の関係各課や関係機関が実施する講座の一部を連携講座として位置付けより多くの学びの機会を提供したことにより、「学びを通じたまちづくり実践者の養成」という目的達成に近づけるよう、受講生のスキルアップを図りました。	
	課題	とちぎ未来アシストネットは、事業として成熟しつつあるが、継続的に認知度を高めることが必要になっている。 特に、施設については老朽化が進む状態が数多く見られるため、計画的な改修を行い、満足度を下げないような施策が必要である。 各種学級講座等の参加者の年齢層が高齢であることが課題である。	
	取組方針	社会教育施設の改修を計画的に行い、学校・家庭・地域の連携・協働体制を更に築きながら、とちぎ未来アシストネット事業を推進するとともに、各種学級・講座受講者満足度を図る。	
	貢献度	基本方針に掲げる「健やかに育み学び続けられるまちづくり」は、一生に渡り学び続ける学習の充実が不可欠であるため、本基本施策の目標達成度は高いと判断した。	
	達成状況	社会教育施設利用者満足度、各種学級・講座受講者満足度とも、前期5年分の目標を達成している。	

内部評価 【前期5年 分】	課題	<p>価値観やライフスタイルの多様化を踏まえた、誰もが学び誰もが教えることで、地域社会で活躍できる環境づくりが必要となっている。</p> <p>学校支援ボランティア活動の活性化を受けて、児童・生徒が積極的に地域貢献活動を行うようになったことへの対応が必要となっている。</p> <p>「とちぎ未来アシストネット」の地域に対する事業の啓発の必要がある。</p>
	取組方針	<p>生涯学習の拠点となる施設及び関連施設の利用促進を図る。また幅広い世代も興味を持てるような生涯学習メニューの充実や、各種講座の受講者が学習の成果を地域で活かせるための方策や活躍の場をさらに検討していく。</p> <p>「とちぎ未来アシストネット」は、より一層学校・家庭・地域の連携・協働を推進するため、「地域から学校へ」の取組みから「学校から地域へ」の取組みを推進し、地域の人と人とのつながり・絆を強化し、地域の教育力の向上を図るとともに、引き続き、とちぎ未来アシストネットの啓発を推進する。</p>